

開講科目名 / Course	くらし・文化 - 地域の芸術文化振興 - / Living/Culture - Arts management in regions -
時間割コード / Course Code	1231110001
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	袴田 麻祐子 / HAKAMATA MAYUKO (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)、テスト教養教育 (教養教育開発実践センター /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	青森と関わる芸術に関する見識を深めること 芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること
授業の概要 / Summary of the class	芸術をとりまく制度、地域の文化格差、文化権などの観点から、世界・全国と青森・弘前の現状を理解する。 地域の芸能や伝統文化の振興政策について理解する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	4月14日 (金) 17:40 ~ オリエンテーション (朝山、出) (20分程度、場所はTeamsを通じて連絡) 【第1日】7月上旬の金曜日 18:00頃 ~ (学部教員ほか。日時は目安。履修者の都合によって変更の可能性あり) 第1回 弘前における現代美術のための文化施設とその意義 「弘前れんが倉庫美術館」にて実施。開催中の展覧会および施設の内見を含む。要観覧料 欠席、遅刻、公欠などの取り扱いについては、Teams のスレッドをご参照下さい。 【第2日】8月上旬 (福田) 12:40開始、面接授業 第2回 「地域の伝統芸能」とはなにか ~ アプローチの変遷と現在 ~ 第3回 地域の芸能をめぐる法制度と取り組み 第4回 地域の伝統芸能を見てみよう ~ 地域の伝統芸能を知る・見るために ~ 【第3日】8月上旬 (福田) 10:20開始、面接授業 第5回 「地域の芸能」 × 「アートマネジメント」の視点 第6回 ディスカッション「地域の伝統芸能のいま」 第7回 「地域の伝統芸能」 × 「アートマネジメント」取り組み事例 第8回 グループ発表「企画の立案」 【第4日】8月31日 (袴田) 10:20開始、面接授業 第9回 地域にとって芸術文化とは 芸術文化と「公益」 第10回 国の政策における文化概念 文化庁の成り立ちと扱う範囲 第11回 国の政策における文化概念 文化芸術の「本質面」と「効用面」 第12回 データからみる我が国の芸術文化活動 【第5日】9月1日 (袴田) 10:20開始、面接授業 第13回 データからみる各地域の芸術文化活動 第14回 文化イベントをめぐる力学 第15回 文化芸術の地域間格差

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	前半（福田）： ・講義内の課題 30% ・期末課題 20% 後半（袴田）： ・講義内の課題 30% ・期末課題 20%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・講義期間中は各日とも、講義内容をよく振り返り、補足の情報収集などして理解を深めること。また、講義内課題に真摯に取り組み、十分な準備をして次の授業に臨むこと。 (福田先生より) ・北海道・北東北の「地域の伝統芸能」（民俗芸能、伝統的な行事・祭）について、どのようなものがあるか予め調べておくこと。 ・地域の伝統芸能をめぐる昨今の動きについて、アンテナをはっておくこと。 (袴田先生より) ・講義内課題で使用するため、文化イベント（展覧会、公演等）のチラシ（またはパンフレット、フライヤー）を各自2～3枚収集し持参すること。 ・期末課題として、講義内容を踏まえた文化的なイベント（展覧会、公演等）の体験レポートを課す予定。（講義以前に体験した文化的なイベントを対象としても構わないが、直近半年以内のものとする。その場合、体験したイベントのチラシ、パンフレット、Webで情報を得た場合はイベント名・作家や出演者・期日・主催者等の情報がわかる画面のスクリーンショット等を講義終了まで保管しておくこと）。 =>イベントの中止が相次いでおりますが、開催の計画と中止・延期の様相を含めて情報収集して下さい。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特になし
参考文献 / bibliography	我が国の文化政策（文化庁 年次報告書） https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenji_hokokusho/r01_bunka_seisaku/pdf/r1421859_00.pdf このほか、講義内で適宜指示します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	アートワールドひろさきキュアプログラム（履修照明プログラム）必修科目
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メール、Teamsチャットを通じて随時可。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子（教育学部）asayaman@hirosaki-u.ac.jp；出佳奈子（教育学部）idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A04: 地理学, 文化人類学, 民俗学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー / The subject number	LA-2-1404-A01

メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験のある教員による授業科目：（福田、袴田）これまでに、各自治体や日本芸術文化振興会などの調査委員会や研究組織での調査・研究経験をもち、全国的・全世界的視点から青森・弘前の地域の実情を考察する。（出、朝山）地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じてアートイベントの制作を行っており、現代的な生活に必要とされるアートの在り方を踏まえて授業を行う。

開講科目名 / Course	思想 - 美学入門 - / Philosophy - An introduction to Aesthetics -
時間割コード / Course Code	1232110004
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	森 功次 / MORI NORIHIDE
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 功次 / MORI NORIHIDE (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応する CP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	思想, 宗教, 哲学, 歴史, 倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること 美学, 芸術哲学およびその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 日常社会への理解を深めること 身の回りの文化的問題について議論できる力をつけること
授業の概要 / Summary of the class	現代英語圏の美学 (いわゆる分析美学) の基礎的な議論、概念について学習し, 理解を深める。 美学の視点を用いて, 身近な文化状況のありかたや現代の社会問題について考察する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 イントロダクション 第2回 芸術の定義 1 : 芸術の定義はなぜ求められるのか / 近代美術システムの誕生 / 伝統的な芸術理論 / 単純な機能主義 (再現説、表現説、形式主義、美的機能説) 第3回 芸術とは何か 2 : 懐疑主義 (ワイツ) / 伝統的な芸術理論をどう読むべきか / 制度説 (ダント、ディッキー) / 機能主義と手続き主義 第4回 芸術とは何か 3 : 歴史的アプローチ (レヴィンソン) / 歴史的機能主義 (ステッカー) / 現代の定義論 (束説 (ゴート)、責任転嫁説 (ロベス)) / 「こんなものが芸術なのか」という論争に出会ったときのコツ 第5回 芸術批評の哲学 1 : ヒューム「趣味の標準について」 / 「趣味の良さ」とは何か / 理想的批評家に求められる能力 第6回 芸術批評の哲学 2 : 不道德な作品は醜くなるのか / ヒューム解釈をめぐる近年の議論 / 第7回 芸術批評の哲学 3 : 芸術批評とは何をすることなのか / 批評文を読むときに気をつけるべきこと / ノエル・キャロルの批評理論 / 批評を支えるいくつかの作業 第8回 芸術批評の哲学 4 : ウォルトン「芸術のカテゴリー」 / 作者の意図の重要性 / 客観的批評を書くために求められること 第9回 美的なもの 1 : カント『判断力批判』 / 趣味判断と美的判断 / 「美的判断には実利的関心が伴っていない」という意見について 第10回 美的なもの 2 : シブリー「美的概念」 / 美的質と非美的質 / いくつかの依存関係 / 批評家は結局何をやっているのか 第11回 美的なもの 3 : 美的真理を他人に伝えることはできるか / 美的証言をめぐる論争 第12回 美的なもの 4 : 自律的な美的判断という理想 / スノップは何が悪いのか 第13回 フェミニスト美学 1 : 「なぜ偉大な芸術家は存在しなかったのか」 (ノックリン) / 教育・報奨制度・文化慣習における男女格差 第14回 フェミニスト美学 2 : ヌードはなぜ芸術とされてきたのか / ヌード・ポルノの悪をめぐる論争と表現規制の論理 / 公共の場での萌え絵をめぐる問題 第15回 フェミニスト美学 3 : イエローフィーバーをめぐる倫理的論争 / 「アジア人女性の黒髪が好き」はただの外見の好みの問題なのか / ジェンダーと人種の美学 / 好みは教育で左右できるのか
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	平常評価 (各日の課題、リアクションペーパー、および授業内での質疑応答への参加。評価全体の50%) 期末レポート (授業内で紹介した議論を批判的に検討する文章を書いてもらいます。同50%) 上記を合算して成績評価を行います。

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習：必須ではないが、やる気のある学生はリーディングリストの文献を読み、当該トピックについて理解を深めておくこと。 復習：リーディングリストおよび授業内で紹介した文献を参考に、授業内で取り上げた概念について理解を深めるとともに、授業内で紹介した議論を用いて身近な文化的問題について考察すること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	購入必須の書籍はなし。授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	ロバート・ステッカー『分析美学入門』（森功次訳、勁草書房、2013年） 購入の必要はありません。 分析美学の邦語参考文献リーディングリストを公開しています。やる気のある学生はこちらを参考にしてください。 http://morinorihide.hatenablog.com/entry/20181218/p1
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	美学の初学者に向けた内容ですので、受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、やる気のある学生は公開しているリーディングリストを参考に、関連文献を読み進めていって下さい。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	質問は基本的に授業内にしてほしいです（質問によって説明の悪かった点が改善されますし、話題を掘り下げることもできますので）が、授業中に聞けなかったことはリアクションペーパー、および授業の前後に口頭、メールにて受け付けます。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	Eメールアドレス：morinorihide[at]otsuma.ac.jp [at]を@に置き換えてください。
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	該当なし
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	対面講義。課題はteamsにて提出。
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	芸術 - モダンアート - / Art - Modern Art -
時間割コード / Course Code	1231100229
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
授業の概要 / Summary of the class	18世紀～20世紀前半にかけての近代美術（モダンアート）の歴史的展開を概観します。たとえば、モネやゴッホ、ピカソのような画家の名前を聞いたことがある人は多いでしょう。また、ピカソによる独特の表現を目にして戸惑いを覚える人も一定数いると思います。ヨーロッパ近代に生み出された数々の美術作品は、約200年を通じて、その外観を大きく変化させていきました。この変化は「見た目」だけではなく、表現内容や鑑賞のあり方にも共通して見られるものです。そしてこの時期の美術は、その後の美術受容の成り立ちやアートのグローバル化にも大きな影響を与えています。この授業では、可能であればこの時代のアーティストによる表現を体験したりしながら（ちょっとした制作）、いったいなぜこのような変化が生じたのかという疑問を起点として、モダンアート理論の理解を目指します。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 オリエンテーション（授業の概要・アンケート） 第2回 啓蒙主義時代の美術鑑賞：「芸術」概念の成立、「美的質」の享受 第3回 「新古典主義」とナショナリズム：美術作品におけるストーリー1 「アカデミズム」の形成 第4回 「ロマン主義」とナショナリズム：美術作品におけるストーリー2 「アカデミズム」の形成 第5回 クールベの「写実主義」における作者の心情：美術作品におけるストーリー3 第6回 マネVS印象派（モネ、ピサロ、ルノワールなど）：ストーリーVSディスクリプション（記述） 第7回 「後期印象主義」（ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ）：心情表出（expression）VS形の探求（form） 「アカデミズム」の解体 第8回 内面の表出1 「象徴主義」（モロー、ルドンなど）・「シュールレアリスム」：想像・思考の表現 第9回 内面の表出2 「フォーヴィスム」（マティスなど）・「ドイツ表現主義」：感情の表現 第10回 形の探求1 「キュビズム」（ピカソ、ブラックなど） 第11回 形の探求2 「シュプレマティズム」・「新造形主義」（モンドリアン）・「バウハウス」（カンディンスキー、クレーなど） 第12回 形の探求3 「アンフォルメル」（デュビュッフェ）・「抽象表現主義」（ポロック、ロスコーなど） 第13回 内面の表出3 デュビュッフェと「アウトサイダーアート」/「プリミティヴィズム」の問題 第14回 「ダダイズム」とアートワールド：アートのパラダイムチェンジ 第15回 拡張する「アート」の裾野：「コンテンポラリーアート」へ 第16回 試験 内容は変更になることもあります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	復習課題 20% 試験 80%

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	特に復習が重要です。授業中に扱った美術作品については図書館所蔵の美術全集等で確認してください。また、授業後にteamsを通じて復習用の課題を出すことがあります。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業中に適宜紹介します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	特にありません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	下記のメールアドレスあるいはteamsのチャットでお願いします。面接を希望の場合は、同様にメールかチャットでその旨をお知らせください。日時調整の上、実施します。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	パワーポイントを用いた講義形式(可能であれば作品づくりをすることもあります)
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	・副専攻プログラム「アートワールドひろさきキュアプログラム」の必修選択科目です。

開講科目名 / Course	地域の芸術・文学 - 日本美術史 - / Regional Art/Literature - History of the Japanese Art -
時間割コード / Course Code	1232100227
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域で生み出された多様な芸術・文学に触れることを通して、豊かな表現力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○江戸時代までの日本美術史の流れを時系列的に概観します。 ○それぞれの時代の表現上の特徴を把握します。 ○個々の作品がうみだされた文化的背景や他国との関係について学びます。 ○津軽藩とかかわりのある美術品に注目し、日本美術史全体のなかに位置づけます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	授業予定 第1回 飛鳥時代の仏像 第2回 白鳳時代の仏像 法隆寺の仏像など 第3回 天平時代の美術 阿修羅像、東大寺の大仏など 第4回 檀像と平安時代初期の仏像 第5回 平安時代の浄土教美術：平等院鳳凰堂の阿弥陀如来など 第6回 平安時代の絵画：仏画・絵巻物 第7回 鎌倉時代の絵画：絵巻物・垂迹画・肖像画 第8回 鎌倉時代の仏像彫刻：運慶と快慶 第9回 室町時代の水墨画：禅宗美術、雪舟、阿見派、狩野派の登場など 第10回 室町時代の屏風絵と絵巻 第11回 安土桃山時代の美術：狩野永徳と長谷川等伯、南蛮美術など 第12回 江戸時代の絵画1：狩野派の展開 第13回 江戸時代の絵画2：琳派・尾形光琳と津軽藩 第14回 江戸時代の絵画3：奇想派の画家たち（伊藤若冲、曾我蕭白、長沢蘆雪など） 第15回 江戸時代の絵画4：円山応挙・洋風画・南画（池大雅、与謝蕪村など） 授業のテーマは変更することもあります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	各授業で指示した課題への取り組み 20% 期末試験 80% 上記を合算して成績評価を行います。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代や美術作品について、画集等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や時代背景、概念については、配布資料や画集で確認・整理し、理解しておくこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。

留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	初学者に向けての授業なので、予備知識は特に必要としません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	Eメールアドレスかteamsのチャットを介して質問してください。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 美術史研究入門 - / International Area Studies/Society/Culture - An introduction to the Study of the History of Art -
時間割コード / Course Code	1232100030
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○美術史研究の方法論を理解する。 ○社会における美術やイメージの多様な役割について考察する。 ○ペストという致死率の高い疫病と絵画メディアとのつながりを考察する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 導入:授業の流れについて 第2回 「美術」とは何か:「芸術」概念と美術史 第3回 様式史 (cf. ミラード・ミース『黒死病後のフィレンツェおよびシエナの絵画』1951年刊) 第4回 イコノグラフィ(図像学)とキリスト教美術 イエス・キリストの生涯 第5回 イコノグラフィ(図像学)とキリスト教美術 聖母マリアの生涯 第6回 イコノロジー(図像解釈学) 第7回 美術の機能(芸術以前・芸術以降) 宗教と美術 仏像(興福寺の《阿修羅像》) 第8回 美術の機能(芸術以前・芸術以降) 宗教と美術 イコン, 祈念像, 祭壇画 第9回 美術の機能(社会における美術) 政治(戦争)と美術:プロパガンダ/抗議/記念碑 第10回 美術の機能(社会における美術) ジェンダーと美術:「ヌード」を巡る言説 第11回 美術の機能(社会における美術) マスメディアとイメージ:「かわいい女の子」の再生産 第12回 五感と美術 美術は視覚のみに結びつくもの?:嗅覚と美術 第13回 疫病と美術 ペストと「ミラクル・ワーキング・イメージ」 第14回 疫病と美術 ペスト終焉、その後、どうする?:ペスト後のオルサンミケーレとタベルナーコロの建造 第15回 疫病と美術 ペスト終焉はどのようになされた?:タベルナーコロの図像プログラムを読む 第16回 期末試験 授業後にコメントペーパーの提出を求めることがあります。 講義内容は多少変更する可能性があります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	レポート(50%)と期末試験(50%)を合算して評価します。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代および地域の美術作品を, 図書館に所蔵されている美術全集等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や美術史研究の方法論, 概念については, 配布プリントおよび美術全集の写真や解説, また紹介する参考図書などで確認・理解すること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	とくにありません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	授業毎のコメントペーパーに記入するか、teamsのチャットまたは下記メールアドレスにお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	パワーポイントを用いた講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 音楽史研究入門 - / International Area Studies/Society/Culture - An introduction to historical musicology -
時間割コード / Course Code	1232100219
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750) の音楽活動と主要作品の概要を掴む。音楽の研究手法・研究課題の概要を見渡し、「音楽学」、「音楽史」という学問分野の成立と目的を知る。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	音楽は、素晴らしいものです！といっても、その素晴らしさはいったいどこから来るのでしょうか？なぜ、私たちは音楽を聴いて感激するのでしょうか？「音楽学」は、こうした疑問に答えることを目指す学問です。音楽をもっと楽しむために、新たな音楽に出会うために、好きな音楽を広めるために、あるいは、よりうまく演奏するために、音楽学は役立ちます。 なお、ほんらい音楽学の対象は幅広く、何もクラシック音楽に限定されるものではありません。本授業では例として、クラシック音楽の研究方法の中から、「歴史的音楽学」を紹介します。 トピックとして、以下のものを予定しています。(受講生の関心や理解度に応じて変更することがあります。) 第1回 1) なぜバッハ？ : (導入) 芸術と芸術学、音楽と音楽学 第2回 2) バッハって誰？ : 伝記研究(1) : バッハの生涯と創作の概要 第3回 (2) : バッハの伝記の諸相 第4回 3) バッハの曲ってどれ？ : 楽譜資料の整備と作品の年代特定 第5回 4) バッハの曲ってどんなの？ : 様式研究の方法 4-1) 鍵盤曲 : 書法の分析(1) : クラヴィア作品 第6回 (2) : オルガン作品 第7回 4-2) 管弦楽曲 : 楽曲形式の分析 第8回 4-3) 教会カンタータ : 歌詞と音楽の関係 第9回 4-4) 受難曲 : 神学的アプローチ(1) : キリスト教の福音書における受難物語 第10回 (2) : バッハによる聖書解釈としての受難曲 第11回 4-5) オラトリオ : 受難物語と降誕物語 第12回 4-6) 連作曲集 : バッハの体系的創作 第13回 5) バッハの曲ってどうやって弾くの？歌うの？ : 演奏実践 第14回 6) 「Bach は小川ではなく大海である」 : バッハと後世の作曲家たち 第15回 7) バッハはいかにして巨匠となったか？ : バッハと後世の演奏家たち
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	・毎回のリアクションペーパー(40%) : 予習・復習として鑑賞した経験や、講義における疑問点、意見などの質および量 ・期末レポート(60%) : 授業で提示した研究方法と、自身の音楽経験を踏まえて述べているかどうか

<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>・授業内で扱う楽曲を聴いておくこと。授業では一部しか試聴できないことが多いので、かならず予習・復習として全体を聴いて下さい。毎週の平均で各2時間程度が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> -3声のシンフォニア 第9番BWV 795 -トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -F. プソーニ編曲：トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -コラール われらの救い主なるイエス・キリスト Jesus Christus unser Heiland BWV 363 -《さまざまな手法による18のライプツィヒ・コラール》より われらの救い主なるイエス・キリスト BWV 665, 666 -『クラヴィーア練習曲集』第3部より われらの救い主イエス・キリスト BWV 688, 689 -半音階的幻想曲とフーガ 二短調 BWV 903 -2声のインヴェンション 第6番 ホ長調BWV 777 -《平均律クラヴィーア曲集》第1巻より第2番八短調BWV 847 -《フランス組曲》第6番 ホ長調 BWV 817 -オルガン・ソナタ第6番 ト長調 BWV 530 -《イタリア協奏曲》 BWV 971 -無伴奏チェロ組曲第1番BWV1007 -無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番BWV1004 -《音楽の捧げ物》BWV1079 -ヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロのためのソナタBWV1039 -《ブランデンブルク協奏曲》全6曲 -《管弦楽組曲》全4曲 -カンタータ第147番《心と口と行ないと生活がHerz und Mund und Tat und Leben》BWV146 -カンタータ第4番《キリストは死の縄目に繋がれたり Christ lag in Todes Banden》BWV4 -カンタータ第106番《神の時は最良の時 Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit》BWV106 -《マタイ受難曲》BWV244 -《クリスマス・オラトリオ》BWV248 -《ゴルトベルク変奏曲》BWV988 -《ゴルトベルク変奏曲の主題に基づく14のカノン》BWV 1087 <p>ほか、授業時に指示します。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>・必要な資料は授業中に配布します。 ・試聴音源は、大学の契約する音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用して下さい。アクセス方法（IDおよびパスワード）は初回授業時にお知らせします。</p>
<p>参考文献 / bibliography</p>	<p>弘前大学付属図書館本館所蔵： 久保田慶一『バッハ』（音楽之友社、2021） 磯山雅他編著『教養としてのバッハ 生涯・時代・音楽を学ぶ14講』（春秋社、2012） Ch.ヴォルフ『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：学識ある音楽家』秋元里予訳（春秋社、2004） M.ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』小林義武他訳（東京書籍、2001） 磯山雅『マタイ受難曲』（東京書籍、1994） 角倉一郎監修『バッハ事典』（音楽之友社、1993） 角倉一郎監修『バッハ叢書』全10巻と別巻2巻（白水社、1976-1997） 第1-9巻と別巻1のみ所蔵。 『音楽大事典』全5巻（平凡社、1981-1983）</p> <p>教育学部音楽教育講座所蔵（閲覧の際は教員に直接申し込んで下さい）： 『ニューグローブ世界音楽大事典』全21巻と別巻2巻（講談社、1993）</p> <p>青森県立図書館所蔵： M.ベッツォルト『バッハの街』小岩信治、朝山奈津子訳（東京書籍、2005） D.シューレンバーグ『バッハの鍵盤音楽』佐藤望他訳（小学館、2001） 磯山雅他監修『バッハ事典』（東京書籍、1996）</p> <p>県内図書館に所蔵なし： 久保田慶一他編著『バッハ キーワード事典』（春秋社、2012） 『バッハ全集』（小学館、1996-1999）全15巻 CDと論文や対訳などを含む単行本のセット</p>
<p>留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background</p>	<p>・五線譜は読めなくとも構いません。 ・作品鑑賞の際には著作権違反をすることがないように注意して下さい。インターネット上の資料を使う場合には、大学が契約する音楽配信サービスや、パブリックドメインのものを利用して下さい。</p>
<p>授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents</p>	<p>Teamsチャット、電子メール等で予約の上、随時可。 後期オフィスアワー：火曜5/6時限 授業後にも対応します。</p>
<p>Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address</p>	<p>asayaman@hirosaki-u.ac.jp</p>

学問分野1 (主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2 (副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3 (副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	<p>バッハの時代の教会音楽に関する授業の中で、キリスト教、特にルター派の思想と礼拝慣習に言及します。特定の宗教を布教する目的はありませんが、不快に感じる方は履修を控えて下さい。</p> <p>実務経験：担当教員は、地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じて音楽会制作を行っており、現代的な生活に必要とされる音楽の在り方を踏まえて授業を行う。</p>

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - トランスナショナリズムの音楽 - / International Area Studies/Society/Culture - Music in Transnationalism -
時間割コード / Course Code	1232100029
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO (国際連携本部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多角的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	音楽を聴く(あるいは演奏・創作する)ことは、人間として存在することの重要な一条件である。しかし、世界の音楽文化は多様であって、その背景には複雑な事情が存在している。この授業では、多角的な知性を育みながら世界の中の一地域で暮らすことの特異性と、人間の音楽による営みの普遍性という二つの側面を有する音楽がもつ文化的な力について理解を深める。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	1. 序論「近い体験・遠い体験」 2. P0序:「語りえぬもの」のエスノグラフィー 3. 『扉をたたく人』視聴 4. 『扉をたたく人』リフレクション 5. P01:「いま ここ」の神話論理 6. P02:呼びかけと振り向き 7. アフリカン・ディアスポラ 8. アフリカン・ディアスポラ 9. P03: テリトリーを生み出す「切り分け」(前) 10. P03: テリトリーを生み出す「切り分け」(後) 11. 南アジア・西アジア・マグリブ 12. ポストコロニアリズム 13. P04:「あいだ」の感覚(前) 14. P04:「あいだ」の感覚(後) 15. P05:メラネシアのポップ 16. P06:トゥバのホームメイ P0 = 『パフォーマンスの音楽人類学』
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	リフレクションペーパー 90% 授業参加 10%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習:教科書を読み次回の導入を理解する。 復習:リフレクションペーパーの振り返り。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	『パフォーマンスの音楽人類学』(勁草書房 2012年)
参考文献 / bibliography	授業中に紹介する。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	世界の音楽文化に興味をもって授業に臨んでください。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	水曜日 9・10 時限目 Teams
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	suwa @ hirosaki-u.ac.jp (スペース空ける)
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A04:地理学,文化人類学,民俗学およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	A01:思想,芸術およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	A03:歴史学,考古学,博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	講義の後にリフレクションペーパーを書いてもらいます。
科目ナンバー /The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	無/Nothing
その他 /Others	なし

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - コンテンポラリーアート - / World Art/Literature - The study of the Contemporary Art -
時間割コード / Course Code	1232110006
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	三木 あき子 / MIKI AKIKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	三木 あき子 / MIKI AKIKO (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	○現代アートについての学術的知識・理解を深める。 ○現代の様々な視覚表現に触れることにより、感性や想像力・創造力を高める。 ○現代アートを通して、世界や地域・社会の様々な課題に関心を持ち、自ら問い、考え、言葉にする力を養う。 ○将来のキャリアや生活形成、地域社会への貢献を想像することに繋がる。
授業の概要 / Summary of the class	弘前れんが倉庫美術館を含む国内外各地の美術館の立上げを担った専門家が、「歴史的流れと社会背景」、「現代アートの世界」、「アーティストたちの実践」、「アジアの現代アート」、「アートと地域」といった幅広い視点から現代アートへの理解を促します。アートに関する基本的知識を得るだけでなく、現代アートの多様な現場や鑑賞すること、さらには生活や地域におけるアートの可能性等について考えます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	(予定・微妙な変更の可能性あり) 第1回：美術の流れをつかむ(美術史入門) I 第2回：美術の流れをつかむ(美術史入門) II 第3回：美術の流れをつかむ(美術史入門) III 第4回：日本現代美術史「戦後～現在まで」 第5回：キュレーションの現場から～21世紀アートのトピックをめぐって 第6回：アーティストたちの取組みI 第7回：アーティストたちの取組みII 第8回：現代アートはわからない？(事前に受け取った現代アートに関する様々な問いから抜粋して議論) 第9回：アジアの現代アートシーン 第10回：現代アートの世界I：美術館～オルタナティブスペース 第11回：現代アートの世界II：国際展・芸術祭 第12回：現代アートの世界III：アートマーケット 第13回：地域と現代アートー場をつくる 第14回：現代建築を知る 第15回：鑑賞体験についての課題
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	授業内課題30% , 期末課題(レポート)70%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】現代美術やコンテンポラリーアートを扱う美術館についてインターネットや本を通して情報を得ること。 【復習】授業中に紹介したアーティストや展覧会、イベントなどの事例を調べたり、確認したりすること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	資料がある場合は、teamsにデータをアップロードします。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	特にありません。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	Teamsのチーム内のチャットでお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	担当教員：出 佳奈子 (idek_48@hirosaki-u.ac.jp)
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 /Class form, class method	集中講義：日程については以下のとおり 10月および11月の土日(全部で4日間) 日程については決まり次第連絡します。
科目ナンバー /The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	美術館をはじめとするアートに関する場所で多くの展覧会等を手がけてきたキュレーターによる講義です。

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - 舞台芸術概論 - / World Art/Literature - An introduction to the arts of theatrical production -
時間割コード / Course Code	1232110002
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	舘 亜里沙 / TACHI ARISA (教養教育開発実践センター /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して、高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	東西の舞台芸術(能、文楽、歌舞伎、バレエ、オペラ、演劇など)について、その歴史を踏まえつつ、ドラマ・音楽・美術・演出などの総合的な観点を身につける。 各舞台芸術ジャンルで古典ないしスタンダードなレパートリーと称される演目について、現代における上演の意義を考察する。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>授業は以下のような内容で進める。 授業の進度や履修者の関心等に応じて内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 授業の主旨および関連資料の探し方（朝山奈津子）【メディア授業オンデマンド方式、第1日の1週間前までに公開】</p> <p>第1-2日（館垂里沙）【10月14日（土）・10月15日（日）、面接授業】 第2回 オペラのかたち（18世紀まで）：オペラの誕生から「番号オペラ」と称される古典的オペラの型が確立するまでを概観する。 モンテヴェルディ《オルフェオ》、ヘンデル《エジプトのジュリオ・チェザレ》、モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ》ほか 第3回 オペラのかたち（19世紀）：「番号オペラ」が崩れる過程と、19世紀の作曲家達が試みた諸ジャンルや作風を概観する ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》、ヴェルディ《リゴレット》、プッチーニ《トスカ》ほか 第4回 バレエの芸術性：宮廷バレエおよびその後のロマンティック・バレエ/クラシック・バレエ/モダン・バレエの変遷を概観する。 リュリ《町人貴族》、アダン《ジゼル》、チャイコフスキー《白鳥の湖》、ストラヴィンスキー《春の祭典》ほか 第5回 近現代の音楽劇：イリュージョンか脱イリュージョンか、アンチ・オペラか伝統的オペラか等、20世紀のオペラ/音楽劇史に巻き起こった議論を軸に、舞台芸術の多様性に触れる。 ストラヴィンスキー《エディプス王》、サティ《バラード》、ライヒ《スリー・テイルズ》ほか 第6回 オペラを「読む」 ワーグナー《ラインの黄金》（《ニーベルングの指環》序夜）に投影される社会 第7回 演出で楽しむ《ラインの黄金》（シェロー、クプファー、シュレーマー、ウォーナー、ネミロヴァほかの諸演出の比較・考察） 第8回 オペラ演出の仕事：《メリー・ウィドウ》を例に</p> <p>第3-4日（小塩さとみ）【2月12日（月）・2月13日（火） 面接授業】 第9回：日本の舞台芸術と音楽の歴史 第10回：能と狂言（その1）演劇空間の特徴・狂言の鑑賞 第11回：能と狂言（その2）音楽的な特徴・能の鑑賞 第12回：歌舞伎（その1）演劇空間と音楽的な特徴 第13回：歌舞伎（その2）多様な演劇様式の比較 第14回：文楽（その1）文楽の演劇的・音楽的特徴 第15回：文楽（その2）文楽の作品鑑賞＋日本の伝統芸能に関するまとめ</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<p>前半（館） ・レポート課題（最終授業時に提示）50%</p> <p>後半（小塩） ・リアクションペーパー（毎回の授業で配布）25% ・レポート課題（最終授業時に提示）25%</p>
<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>予習：授業への理解がより深まるよう、シラバスに記載された演目については事前にあらすじや配役を読んでおくことが望ましい。また、高校までに学習した日本史（文化史）について確認しておくこと。 復習：授業で扱ったものの中で関心をもったジャンルについて自分でさらに調べたり視聴したりする。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>随時プリントを配布。</p>

参考文献 /bibliography	佐和田敬司ほか編 『演劇学のキーワード』（ペリかん社、2007） ロジャー・パーカー著（大崎滋生訳）『オックスフォードオペラ史』（平凡社、1999） 県立図書館所蔵 永竹由幸 『痛快！オペラ学』（集英社インターナショナル、2001） エリカ・フィッシャー＝リヒテ（中島裕昭ほか訳）『パフォーマンスの美学』（論創社、2009） 片桐功ほか 『はじめての音楽史：古代ギリシャの音楽から日本の現代音楽まで』（2017） 長木誠司 『オペラの20世紀 夢のまた夢へ』（平凡社、2015） 県内所蔵なし、弘前大学図書館へ購入依頼中 小塩さとみ 『日本の音・日本の音楽』アリス館、2015 弘前市立図書館、県立図書館ほか所蔵 徳丸吉彦 『ものがたり日本音楽史』岩波書店、2019 山本東次郎 『中・高校生のための狂言入門』平凡社、2005 津村禮次郎 『能がわかる100のキーワード』小学館、2001 配川美加 『歌舞伎の音楽・音』音楽之友社、2016 西川浩平 『歌舞伎音楽を知る：一歩入ればそこは江戸』ヤマハミュージックメディア、2009 八坂賢二郎 『音で観る歌舞伎：舞台裏からのぞいた伝統芸能』新評論、2009 桐竹勘十郎、吉田玉女 『文楽へようこそ』小学館、2014 茂手木潔子 『文楽：声と音と響き』音楽之友社、1988
留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	週末および期末の集中授業となるので、日程に注意すること。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	・講義期間中：授業の前後 ・講義期間外：窓口教員を通じて随時。オフィスアワー：火曜5/6時限。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） /Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） /Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） /Discipline 3	A02: 文学, 言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー /The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	実務経験のある教員による授業科目：（館）現在、オペラの演出家としても複数の舞台を手がけており、舞台制作の観点から講義を行う。（小塩）これまでに、各自治体の調査委員会や研究組織での民俗芸能の調査・研究経験を持ち、全国的・全世界的視点、また伝統芸能と民俗芸能の両分野における知見をもって講義を行う。

開講科目名 / Course	地域の多様性と活性化 - 地域とアートワールド - / Regional Diversity and Revitalization - Artworlds and regions -
時間割コード / Course Code	1231200039
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小杉 在良 / KOSUGI ARIYOSHI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域が孕む様々な問題や地域が持つ様々な魅力を理解すること 地域の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
授業の概要 / Summary of the class	地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。 弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。 以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	(講義) 第1回 オリエンテーション(出、朝山(教育学部美術教育および音楽教育講座)) 第2回 弘前と青森の公立美術館の現況(小杉在良(弘前れんが倉庫美術館運営統括)) 第3回 弘前における民間ギャラリーの運営(仮)(樽澤武秀(NextCommonsLab弘前、HIROSAKI AIRほか)) 第4回 座談会:アートのための街づくりを目指して(小杉、樽澤、出、朝山) 第5回 「なんでもアート」はなぜダメなのか?(出、朝山) 第6回 事例研究:弘前と青森のアートプロジェクト(小杉、出、朝山) 第7回 弘前市の「市民まちづくり1%システム」(小杉、出、朝山) (演習) 第8回 問題点の洗い出し:弘前とアートの現状を捉える(小杉、樽澤、出、朝山) 第9回 アイデアを出し合う(小杉、出、朝山) 第10回 アイデアと地域課題の結合:「アート」の価値をどうアピールするか(小杉、出、朝山) 第11回 アイデアの具体化:誰に何をどうやって届けるか(小杉、出、朝山) 第12回 予算案をたてる:プロジェクトに必要な経費と労力を調べる(小杉、樽澤、出、朝山) 第13回 申請書類の準備(小杉、出、朝山) 第14回 申請書類とプレゼン資料の作成(小杉、出、朝山) 第15回 模擬審査会(小杉、樽澤、出、朝山)
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	・授業内の課題への取り組み(20%):期日どおりに提出されたかどうか、課題に対して自分の意見を持つと努めているか ・授業内のディスカッションへの取り組み(40%):コメントの質および量 ・発表への取り組み(40%):話し合いへの参加の積極性、情報収集の質および量
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・弘前市・青森県の文化政策や、文化的な催事について、情報収集を積極的に行うこと。 ・演習の準備を事前に丁寧に行うこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業内で適宜配付・指示。

<p>参考文献 /bibliography</p>	<p>【弘前大学附属図書館 所蔵】 佐々木健一『美学への招待』、中央公論社、2004年。（中公新書1741） 山本晋司編『資源化する文化』、弘文堂、2007年。（資源人類学2） アーサー・ダントー「アート・ワールド」、西村清和編『分析美学基本論文集』、勁草書房、2015年、9-35頁。 渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学：境界線上の音楽』、春秋社、2013年。 ハワード・ベッカー『アート・ワールド』後藤将之訳、慶應大学出版会、2016年。 熊倉純子監修、菊地拓児、長津結一郎編『アートプロジェクト（芸術と共創する社会）』、水曜社、2014年。 クレア・ビショップ『人工地獄：現代アートと観客の政治学』大森俊克訳、フィルムアート社、2016年。 藤田直哉編著『地域アート：美学／制度／日本』、堀之内出版、2016年。 弘前市教育委員会編『弘前の文化財』、弘前市教育委員会、2017年。 小林真理編『文化政策の思想』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在1） 小林真理編『拡張する文化政策』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在2） 小林真理編『文化政策の展望』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在3）</p>
<p>留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始までに、受講者の自己紹介を兼ねたアンケートを実施しますので、回答して下さい。 ・この授業は、後期に行われる「キャリア・デザイン アート・インターンシップ」に接続します。この授業で演習として検討した内容を後期の授業で実践します。できるだけ、通年で受講して下さい。 ・授業内で、「弘前市 市民参加型まちづくり1%システム」への応募をめざします。夏期休業中（9月予定）に審査会があります。希望者は審査会のプレゼンテーションに参加することができます。 ・副専攻「アートワールドひろさきキュアプログラム」コア科目です。副専攻履修者は必ず受講してください。なお、副専攻として履修する場合は、前年までに「地域の芸術文化振興」を受講して
<p>授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents</p>	<p>電子メール、Teamsを通じて随時可。</p>
<p>Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address</p>	<p>窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp</p>
<p>学問分野1（主学問分野） /Discipline 1</p>	<p>A01: 思想, 芸術およびその関連分野</p>
<p>学問分野2（副学問分野） /Discipline 2</p>	<p>A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野</p>
<p>学問分野3（副学問分野） /Discipline 3</p>	<p>A09: 教育学およびその関連分野</p>
<p>実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience</p>	<p>実務経験</p>
<p>地域志向科目 /Local intention subject</p>	<p>地域志向科目</p>
<p>授業形態・授業方法 /Class form, class method</p>	<p>講義、演習</p>
<p>科目ナンバー /The subject number</p>	
<p>メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes</p>	<p>無 / Nothing</p>

その他 /Others	<p>実務経験について：学部所属の担当教員は、地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じてアートイベント制作を行っており、現代的な生活に必要なとされるアートの在り方を踏まえて授業を行う。非常勤講師は、アートプロジェクトのボランティア、アートNPO法人の運営を経て、現在は公立の文化施設の運営に当たっている。ゲストスピーカーは、弘前市内でギャラリーを運営し、アートプロジェクトのキュレーションに豊富な経験を持つ。</p> <p>地域指向科目について：地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。</p>
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

開講科目名 / Course	キャリアデザイン - アート・インターンシップ - / Career Design - Practice in the Art Management -
時間割コード / Course Code	1232200019
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 キャリア教育
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小杉 在良 / KOSUGI ARIYOSHI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること 自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
授業の概要 / Summary of the class	アートから発想したスイーツメニューの企画・実施をします。 弘前れんが倉庫美術館とCafe and Restaurant BRICKでアートと飲食業のインターンシップを経験します。 企画したスイーツに関連するイベント運営のためのノウハウ、広報(フライヤーやウェブ広告)の作成方法を学びます。 上記の学びを通して、就職活動における企業インターンシップにも役立つスキルを身につけます。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>「松山智一展・雪月花のとき」@弘前れんが倉庫美術館 関連企画 「art × sweets アートを食で表現する」をテーマに、弘前れんが倉庫美術館の企画展に関連したスイーツメニューを作っていく授業です。</p> <p>第1回：「松山智一展」について：美術館学芸員による展覧会開始前の特別講義 第2回：デザートメニューを作るということ：カフェ・ブリックのシェフによる仕入れ～提供までの解説 第3回：アートと味覚：アートにまつわる食に関する講義 第4回：「松山智一展」を体験する：「アーティスト×ユーストック」@弘前れんが倉庫美術館（10/29）に参加して展覧会見学＋アーティストとトーク 作品からスイーツを発想してミニレポート提出 10/29に用事があって出席できない場合は個人で展覧会を見学してレポート提出。入館料は学生支援プロジェクトを利用するため無料。トークイベントも参加無料。 第5回：スイーツメニューのアイデア出し 第6回：スイーツメニューのアイデアを絞る 第7回：スイーツメニューのラフ決定/カフェ・ブリックのシェフから助言を受ける。 スイーツお披露目イベントの計画を立てる。 11/25あるいは11/26に自由参加でスイーツの試作・試食会 第8回：スイーツお披露目イベントのためのフライヤー作成：スイーツイメージの素描起こし 第9回：フライヤー制作・完成（紙媒体とSNS広告）：デザイナーによる指導付き スイーツそのものの広報材料も同時に作成 第10回：カフェ・ブリックのメニュー表作成 第11回：カフェ・ブリックのメニュー表完成 第12回：学生考案スイーツの完成試食会：シェフが作ったスイーツメニュー完成形を試食します。 第13回：スイーツお披露目イベントのための準備 第14・15回：スイーツお披露目イベントの実施：メディアによる取材対応とイベント参加者へのプレゼンテーション お披露目イベントは1/20（土）14:00-16:00@カフェ・ブリックを予定しています。 完成したスイーツメニューは、3月17日までカフェ・ブリックで提供されます。</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前準備、参加の積極性（80%） ・ミニレポート（20%）
<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アート関連のスイーツメニューに関する情報を収集してください。 ・全国ないし世界の展覧会や美術館・博物館、スイーツの広報材料（チラシ、ポスター、ウェブサイトなど）を閲覧・収集してください。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員やシェフの助言を振り返りながらスイーツメニューを考案してください。 ・イベントの準備・広報物の作成については講義で扱った内容を振り返ってください。 ・イベント実施後は参加者の反応を振り返ります。
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>授業時に適宜配付</p>
<p>参考文献 / bibliography</p>	<p>特になし</p>
<p>留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者数の上限は16名とします。 ・副専攻「アートワールドひろさきキュアプログラム」の対象科目です。ただし、プログラムに参加していなくても履修できます。
<p>授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents</p>	<p>電子メールやLMSを通じて随時。</p>
<p>Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address</p>	<p>窓口教員：出佳奈子 idek_48@hirosaki-u.ac.jp</p>
<p>学問分野1（主学問分野） / Discipline 1</p>	<p>A01: 思想, 芸術およびその関連分野</p>
<p>学問分野2（副学問分野） / Discipline 2</p>	<p>Z95: 学際・新領域</p>
<p>学問分野3（副学問分野） / Discipline 3</p>	<p>A07: 経済学, 経営学およびその関連分野</p>

実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習、実習
科目ナンバー / The subject number	
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 / Others	<p>講師には、実務経験者として、弘前れんが倉庫美術館スタッフおよびHIROSAKI ORANDOギャラリー運営者、デザイナーを含みます。</p> <p>担当教員：出 佳奈子（教育学部）・朝山奈津子（教育学部） 非常勤講師：小杉在良（弘前れんが倉庫美術館） ゲストスピーカー：樽澤武秀（NextCommonsLab弘前、HIROSAKI AIR ほかノアド・ミュージアム学芸員） 樽澤優香（HIROSAKI AIR ほかノデザイナー） 木村正幸（デザイン工房エスパス）</p> <p>大学担当教員： 出佳奈子 朝山奈津子</p>